

小学校女児のブラジャー装着に関する一考察

Psychophysical Studies on Wearing Brassiere of Primary School Girls

佐野 史子* 鈴田あゆ子** 山平 トモ

Chikako SANO Ayuko SUZUTA Tomo YAMAHIRA

I. はじめに

日本における洋装下着の歴史¹⁾は、明治10年(1877)代の「鹿鳴館時代」に始まるが、当時一般にはそれほど普及しなかった。その後、大正(1912~)年代に入り、職業婦人の服装の洋風化、洋装の作業着の採用、女学校の制服が洋装になったことから洋装下着を着る人が増加したという。

そして、洋装下着の中でもブラジャーの登場は明治末期、つまり20世紀に入ってからのものである。また、ブラジャーが一般に知られるようになったのは、昭和10年(1935)代からである。

その後、ブラジャーを含め洋装下着が普及し必需品に近づくようになったのは、昭和20年(1945)代、いわゆる戦後のことである。

戦後50年を経た今日、ブラジャーは日本女性の服飾習慣として定着し、成人女性であれば誰もがブラジャー装着を経験しているはずである。しかし、私ども女性も初めてブラジャーを装着する時、羞恥心を伴い、また、抵抗を感じるものである。

そこで、実態を把握することにより、初めてのブラジャー装着を経験することになる女児たちが、羞恥心や抵抗感を抱くこと無く自然に装着できるような手立てを考え、指導に役立てたいと思った。

II. 調査対象および方法

1. デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店への聞き取り調査

(1) 調査対象

千葉市とその周辺にあるデパートやスーパーの下着売り場(子供用下着コーナー、大人用下着コーナー)および下着専門小売店を含め19店舗

(2) 調査時期

平成7年9月下旬

(3) 調査方法

デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店への聞き取り調査および商品の観察

(4) 初めて装着するブラジャー購入に関する聞き取り調査

- 1) 初めて装着するブラジャー購入時に来店する者
- 2) ブラジャー購入の多い時期
- 3) 初めてのブラジャー購入の契機
- 4) 購入側が求めるブラジャーのタイプ
- 5) 販売側が薦めるブラジャーのタイプ
- 6) 初めてのブラジャー装着者に販売側が行うアドバイスのポイント

* 岩手県東磐井郡大東町立猿沢小学校

** 千葉市立生浜東小学校

2. 産婦人科医師への聞き取り

千葉市内産婦人科開業医師および性教育指導者でもある産婦人科医師より、医学的立場からブラジャー着装についての聞き取りを行う

3. 「母と子の下着教室」の見学

千葉市内の株式会社S（通称Sデパート）において下着メーカーによる「母と子の下着教室」が開催されることを知り、見学の機会を得る

4. 学校見場での聞き取り調査

(1) 調査対象

千葉市内公立小学校11校の養護教諭11名

(2) 調査時期

平成7年11月下旬

(3) 調査方法

調査対象各校の保健室を訪問し、養護教諭への聞き取りを行う

(4) 聞き取りの内容

- 1) 小学校における養護教諭の考えるブラジャー着装の必要性の有無
- 2) ブラジャー着装指導の有無
- 3) ブラジャー着装指導の契機
- 4) ブラジャー着装指導の機会
- 5) ブラジャー着装指導の内容
- 6) ブラジャー着装指導上の留意点

Ⅲ. 結果および考察

1. デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店への聞き取り調査

(1) 初めて着装するブラジャー購入時に来店する者

デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店に「初めて着装するブラジャー購入時に来店するのは誰か」の聞き取りを行った。

複数回答で、「着装者と母親が来店する」が19店舗中13店舗（68.4%）である。他に「着装者数名（友人同志）が来店する」、「母親のみが来店する」、「母親のみが来店して調べ、後日改めて母子で来店する」である。

この結果から、着装者と母親と一緒に来店することのようである。

(2) ブラジャーが購入されることの多い時期

デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店に聞き取りを行った。

複数回答で、「新学期前の3月から4月にかけて」7店舗（36.8%）、「林間学校前の5月から6月にかけて」、「運動会前の9月」が共に6店舗（31.5%）である。

3月から9月にかけては、気候が暖かく、薄着になるに伴い発育した乳房が目立ちやすい時期でもある。

また、初めて着装するブラジャーの購入時期は、年度初め、林間学校および運動会等の大きな学校行事の前に多い傾向が見られる。

(3) 初めてのブラジャー購入の契機

デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店へ「初めてのブラジャー購入の契機」の聞き取りを行った。

複数回答で、「母親が娘の乳房の膨らみに気づいた」5店舗（26.3%）である。また、「周囲が着装している」、「学校から指導があった」、「男子の視線が気になった」、「自分で必要性を感じた」等、それぞれ1店舗である。

初めてのブラジャー購入の契機は、母親の意識によるもので、本人の意識は低いようである。従って、初めて

着装するブラジャー購入には、母親の意識の程度が関与しており、母親が正しい知識を持つことが必要であろう。

また、親の意識もさることながら、周囲の友人が着装していることで安心感が得られ、着装の方向へ向かいやすいであろう。

(4) 購入側が求めるブラジャーのタイプ

図1, 2, 3はブラジャーのタイプを示したものである。

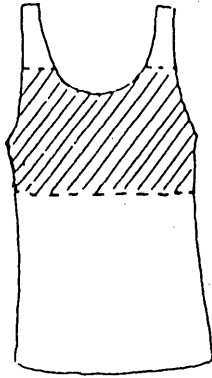


図1 胸元二重仕立てタンクトップ

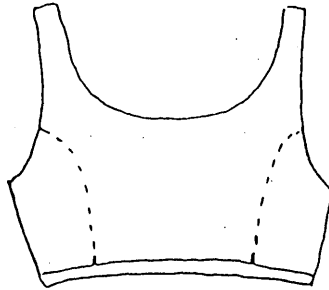


図2 ハーフトップ

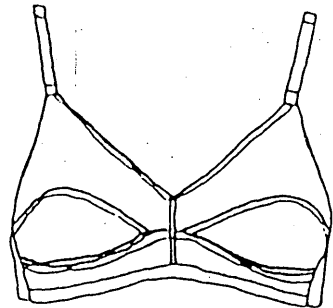


図3 スポーツブラジャー

デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店に、購入側が求めるブラジャーのタイプについての聞き取りを行った。

母親は綿製でかぶるタイプのもの(図1, 2), またはスポーツブラジャー(図3)を好むようである。

着装者本人は、図1および2のようなシンプルなタイプを好み、レースの付いたものや派手なものには抵抗を示すという。また、色は、白色、水色、グレーを好むようである。

(5) 販売側が薦めるブラジャーのタイプ

デパートやスーパーの下着売り場および下着専門小売店に、販売側が薦めるブラジャーのタイプについて聞き取りを行った。

全店舗を通して販売側の薦めるタイプは、発育段階および年齢に応じての二通りがある。

1) 年齢に応じて

小学生には、タンクトップ(図1)またはハーフトップ(図2)がよいという。また中学生には、身体の発達に伴い運動量も増加することからスポーツブラジャー(図3)を薦めている。

実際に各店舗を巡り、発育段階に応じた様々なタイプのブラジャーがあることを知った。店舗によっては、初めての着装者には特にティーンズブラジャーコーナー、ファーストブラジャーコーナーといったコーナーを設けているところもある。

購入前に指導を受けたり、相談することにより、自分自身がブラジャーや身体に関する正しい知識を持ち、発育段階に応じた着装をしていくことが望ましい。そこで、羞恥心や抵抗感を抱くことなく自然にブラジャーの着装を可能にするものと思われる。

(6) 初めてのブラジャー着装者に販売側が行うアドバイスのポイント

デパートやスーパーの下記売り場・下着専門小売店に、販売側として行うアドバイスのポイントについて聞き取りを行った。

19店舗中8店舗(42.1%)が、「採寸・試着後に購入すること」を挙げている。

このように採寸・試着は重要であると思われる。

個々の体格および発育段階はそれぞれ異なり、乳房の形にはそれぞれ特徴がある。また、サイズ表示は同じでも製品のサイズは各メーカーが自社の製品に特徴・独自性を持たせているためか統一されていない。

従って、試着をし、販売員に相談した上での購入を考えるべきであろう。

しかし、脱衣をしての採寸や試着には羞恥心が伴うものである。その上、本人はブラジャー装着の経験もなく、

意識も低いことから抵抗を感じ、消極的になりやすいと思われる。

株式会社Wから示されている下着に関するパンフレット「Study of inner～内側からの身だしなみ」²⁾には、『サイズを正しく知っておくことは下着選びの基本です。「体のサイズ」と「下着のサイズ」のことです。しかしこれだけでも完全でなく、それだけで必ずしもぴったり下着にめぐりあえるとは限らぬ場合があります。そして「少しきつめ」とか「ややゆったりめ」という着け心地にも好みがあるからです。「物理的なぴったり感」と「感覚的なぴったり感」です。だからサイズは大切ですがあくまでも目安のひとつであり、下着はお店（売場）で「試着をして買う」ことが大事です。』とある。

このことから採寸・試着は重要であるといえよう。

ブラジャーを試着した際に、販売側として行うアドバイスのポイントの聞き取りの結果を次にまとめる。

- 1) カップの脇がくい込んでいたり、また浮いたりしていないか
- 2) カップの上辺がくい込んでいたり、また余ったりしていないか
- 3) 前中心は、浮いていないか
- 4) アンダーバストがズリ上ったり、くい込んでいたりしていないか
- 5) 後ろの中心部分は、肩甲骨の下の位置におさまっているか
- 6) 肩ひもがゆるすぎたり、またきつすぎたりしていないか

などである。

2. 産婦人科医師への聞き取り

(1) 千葉市内産婦人科開業医師に、医学的な面からのブラジャー着装の必要性について聞いた。

結論は、医学的にはブラジャー着装の必要性はないということである。医学面での不必要な理由は特に示されなかったが、「ブラジャー着装をしないから、またしたからといって身体には何の支障もない」とのことである。

これは、医学面でのブラジャー着装の必要性がきつとあるのではないかと思っていた筆者らにとっては大変に予想外なことであった。

医学面でのブラジャー着装の必要性が無いということは、今日に至るブラジャー着装の意識は、他の意味からの必要性によるものと考えねばならないのであろうか。

(2) 性教育指導者でもある産婦人科医師の意見は、開業医師とは異なるものであった。

結論は、ブラジャー着装による効果を挙げ必要の意義を示された。第一に、乳房へ外部から加えられる適度の物理的刺激は間脳視床下部、下垂体前葉を介して、女性ホルモンの分泌を促進させる。手の接触やマッサージによる刺激が代表的なものである。第二に、ブラジャーにより、乳房を左右から「寄せ上げる」刺激もそれが強すぎる圧でない限りプラスの刺激効果がある。「寄せ上げる」適度の支持は、乳房の血流を盛んにする可能性もある。第三に、心理的効果のPsychosomatic Effectが極めて重要である。ブラジャーを着装する心理、また、着装後に自覚するものとしての心理効果がある。この両者として、自己の女性性意識、成人意識がある。一人前の女性と見られる自らの体形、自分の胸が美しく見えるよろこび、胸が大きく見える満足感、自分を見る男性の目を意識すること等が、大脳→間脳→下垂体前葉→性腺と伝えられて、女性ホルモン分泌が促進すると考えられる。

本人の身体的、女性性意識が女性ホルモン分泌の呼び水効果となることは、婦人科臨床で応用されている。初経の遅い中学生に対し産婦人科医師は、その事実がなくても「体形が成人女性に向かって変化して来た、性器の発達も進んでいる」等の発言をすると、対照群より、初経発来が促進されるとのことである。

やはり、医学面でのブラジャー着装の意義はあるのであった。

3. 「母と子の下着教室」の見学

千葉市内株式会社S（通称Sデパート）の子供下着売り場において、下着メーカー主催の「母と子の下着教室」が開催されることを知り、見学の機会を得た。

(1) 「母と子の下着教室」

先着10組の母娘を対象としており、講師は下着メーカーのファッションアドバイザーである。初めてブラジャーを選ぶ際のポイントを身体の成長段階と合わせてアドバイスをする。

この教室は約1時間行われ、参加は無料である。小学校高学年の子どもとその母親たちが参加している。

筆者らはこれを見学させてもらった。そこで、乳房の発育過程とブラジャー装着時期および母乳とブラジャーの関連を学ばせてもらうことができた。

(2) 「母と子の下着教室の流れ」

「母と子の下着教室」の内容は、今後のブラジャー装着指導に大いに役立つものであった。

* 「母と子の下着教室」の流れについて：—

1) 乳房の発育過程

乳房の発育過程について、パネルを用いての説明をする。

そして、現在の自分の乳房の発育段階を気づかせる。

2) 乳房の役割

「乳房は何のためにあるか」との質問をすることにより、乳房の役割について考えさせる。そして、乳房は「母乳の出るお母さんになるために必要である」と説いている。

その後、母親に母乳に関する経験を尋ねる。そして、母乳とブラジャーの関係についての説明をする。

3) ブラジャーを初めて装着するにあたり陥りやすい間違い

ブラジャーを初めて装着するにあたり、陥りやすい間違いを指摘し、より良い方法を解説する。

(3) 「母と子の下着教室」で得たこと

1) ブラジャーと母乳の関係

ヒトが進化の過程で四足歩行から二足歩行に移行したことによって、身体にはいろいろな影響が現れるようになった。例えば、痔病つまり肛門の疾患が起きたり、女性の分娩にも影響が及んでいる。

四足歩行をしていた時代には、乳房は円運動をし、これが刺激となって乳汁の分泌が良好であった。しかし、二足歩行をするに及んで乳房の円運動がなくなり、乳汁の分泌に影響を来した。そこで、ブラジャーを装着することによって、乳房の円運動を円滑に行わせることができる——ということである。

このことから、母乳分泌の面からでのブラジャー装着の必要性は高いといえよう。

2) ブラジャーの初装着にあたり陥りやすい間違い

初めて装着するブラジャーが乳房に合っていないくても、初めてであり不慣れなために違和感があっても当然だという思い違いをしがちである。従って、乳房に合わないブラジャーを装着し続けてしまうことになる。

乳房に対して、カップサイズの小さいブラジャーや乳頭発育前のブラジャーおよび成人用のワイヤー入りブラジャーの早期装着は、乳腺の発達を抑制したり、乳頭陥没の虞があるという。

従って、乳房に合わないブラジャーを装着し続けることにより、母乳が出にくかったり、または、出なくなることもなる——という。

これらのことから初めて装着するブラジャーを選択する時には、乳房の発育段階を把握していく必要がある。その上で、採寸や試着をし、乳房の現状に最も合ったタイプのブラジャー選びをすることを心掛けることが必要であろう。

4. 学校現場での聞き取り調査

広井³⁾は、「女性の乳房は思春期の初発現象として肥大発育してくる。この乳房発育は他の第二性徴の発育とも密接に関係し、一般には乳房の発育→陰毛・腋毛の発生→初経の初来→月経の順調化の順にみられることが多い。」と述べている。このことから、一般に乳房の発育は、初経をみる前に開始しているといえよう。

また、日本性教育協会が、1993年に16歳の女子2,246人を対象にした調査では、12歳までに65%が初経を迎え、月経が開始している。

これらのことを踏まえ、12歳女児の半数以上に乳房の発育が開始されているものと解釈し、ブラジャー着装に関する聞き取り調査の対象を小学校とすることにした。

そこで、千葉市内公立小学校11校の保健室を訪問し、養護教諭への聞き取り調査を行った。

(1) 小学校における養護教諭の考えるブラジャー着装の必要性の有無

調査対象の養護教諭11名に、ブラジャー着装の必要性の有無について問うた。

全養護教諭11名が「ブラジャー着装は必要」としている。

また、11名中8名は、「年齢に関わらず、個々の発育に応じた必要性」を付け加えている。

そして、「必要」とする理由は、「乳頭が透けて見えることを防ぐ」、「動きやすくする」、「乳房を保護する」を挙げている。

(2) ブラジャー着装指導の有無

調査対象の全養護教諭11名に「児童にブラジャー着装指導を行っているか否か」を問うた。

11名中10名(90.9%)が、個々に応じた個別指導と全体指導を行っている。

全体指導を行う対象学年は、複数回答で、1名(9.1%)が「小学校4年生」、9名(81.8%)が「小学校5年生」、4名(36.3%)が「小学校6年生」である。

また、11名中の1名は個別指導のみを行っている。

このように、全養護教諭が、ブラジャー着装指導を行っている。

(3) ブラジャー着装指導の契機

調査対象の全養護教諭11名がブラジャー着装の指導を行っている。次いで、指導の契機について問うた。

複数回答で、「養護教諭自身が必要を感じて」が10名(90.9%)、「学級担任から依頼されて」が4名(36.3%)、「保護者から依頼されて」が2名(18.1%)、「児童から相談されて」が2名(18.1%)である。

着装者本人よりも、養護教諭および学級担任が、ブラジャー着装の必要性を感じている。

(4) ブラジャー着装指導の機会

調査対象の全養護教諭11名に、ブラジャー着装指導の機会について問うた。

複数回答で、「初経教育」が8名(72.7%)、「身体測定時」が7名(63.6%)、「林間学校」が5名(45.4%)、「運動会前」が3名(27.2%)である。

これらの回答から、ブラジャー着装指導の機会についてまとめてみた。

★初経教育について：――

二次性徴の諸現象と関連づけて行われることから、ブラジャー着装指導の良い機会であると思う。

★身体測定時について：――

養護教諭および学級担任が、女児の乳房発育をみる良い機会であると思う。

また、男女別に行われるため、ブラジャー着装指導を行いやすい。

★林間学校前について：――

林間学校に備えての保健指導が行われている。女児には、月経やブラジャーに関する指導が行われている。

★運動会前について：――

薄着で運動を行うことが多く、乳房の発育が目立ちやすい。

このように養護教諭はブラジャー着装指導を学校行事と結び付けて行う場合が多い。

筆者らが、下着売り場・小売店を対象に行った調査でも、初めて着るブラジャー購入の多い時期は、「林間学校前の5月から6月」、「運動会前の9月」をそれぞれ6店舗(31.5%)が挙げた結果と一致している。

(5) ブラジャー着装指導の内容

調査対象の全養護教諭11名にブラジャー着装指導の内容について問うた。

複数回答で、「性被害予防」が6名(54.5%)、「運動を行いやすくする」が5名(45.4%)、「乳首・乳腺の保護」が4名(36.3%)、「エチケットとして」が2名(18.1%)、「形態保護」が1名(9.0%)である。

このように複数の項目を挙げて指導をしている。

(6) ブラジャー装着指導上の留意点

調査対象の全養護教諭11名に、ブラジャー装着指導を行う上での留意点について問うた。

- 1) ブラジャー装着期には個人差がある。
そこで、この時期の児童の個人差に留意して、児童の気持ちを傷つけない。
- 2) 児童のプライバシーの保護
- 3) 過剰な恐怖心を与えないように装着の必要性を基本とした指導をしている。
- 4) 初経教育を含め発育段階に応じた性教育を行うなかで指導している。
- 5) 女児のみにブラジャー装着指導をしている。
- 6) ブラジャーについての家庭の考え方を重視している。

以上の結果から、主な事項を次にまとめる。

1. 産婦人科医師にブラジャー装着の必要性を問うた。

(1) 産婦人科開業医師は、特別な場合を除いては必要性を認めていない。

しかし、デパートにおける下着教室では母乳分泌の面からのブラジャー装着の必要性はある、としていた。

(2) 性教育指導者でもある産婦人科医師は、乳房への物理的刺激は女性ホルモンの分泌を促進させること、ブラジャー装着により乳房を左右から「寄せ上げる」刺激は乳房の血流を盛んにする効果があること、また、心理的効果のPsychosomatic Effectが重要である——と必要性を認めている。

2. 発育途上にある女児から成人女性までが装着するブラジャーは、装着者のニーズに応じて様々なタイプのもものが販売されている。

しかし、発育途上にある女児たちは、発育段階に応じたタイプのブラジャーを装着することが望ましい。

3. 学校現場での養護教諭は、ブラジャー装着について「動きやすくする」、「乳房を保護する」、「性被害予防」などから必要性を感じ、女児たちに装着指導を行っている。

4. 女児たちが、発育段階に応じたブラジャー装着をするためには、乳房やブラジャーに対する知識を持たせる指導が必要である。

IV. 児童に対するブラジャー装着指導

これまでの事柄を踏まえ、養護教諭として二次性徴を迎える女児に、羞恥心や抵抗感を抱くこと無しにブラジャー装着をさせるにはどのような指導をしてゆけばよいかを考えてみた。

1. 二次性徴発現と乳房発育

二次性徴における女児の主な現象には、皮下脂肪沈着、乳房の発育、陰毛の発生、腋毛の発生、初経初来などがある。

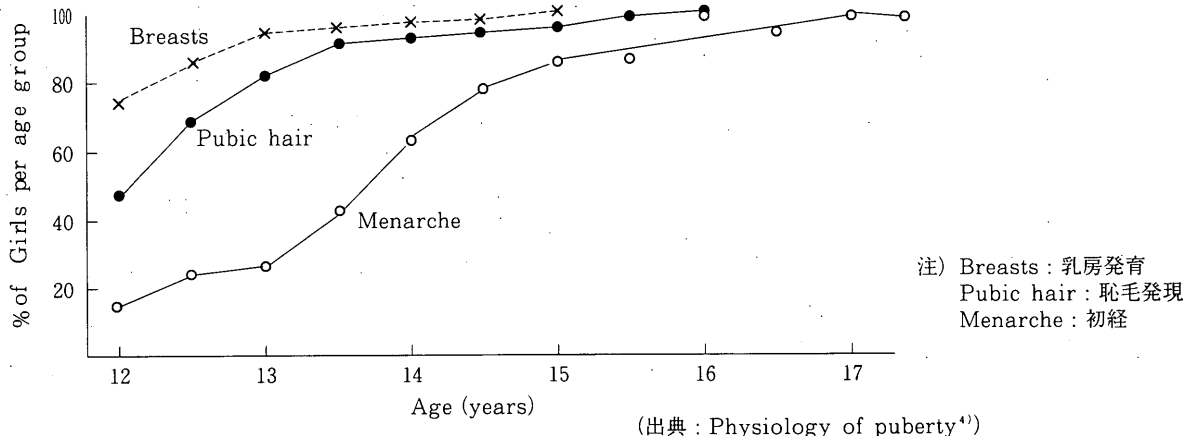


図4 1484人思春期の乳房発育、恥毛発現、初経の頻度と年齢 (Donovan)

図4は、Donovan⁴⁾が1,848人の思春期女子の乳房発育、恥毛発現、初経の頻度と年齢の関係を示したものであり、「思春期における特徴は初経、乳房発育、および陰毛の発現とされ、それぞれの年齢ごとの頻度は乳房、陰毛、初経の順に高くなっている。」と述べている。

また、井上⁵⁾は、「女子での最初の兆候は、乳房の増大と陰毛の少量の出現である。子宮や膣の増大もこの時期にはじまり、膣粘液の酸性度もたかまる。初潮は思春期の最初の兆候からおよそ2年後に起こるが、その年齢には大きなばらつきが認められる。」と記している。

これらのことから、乳房の発育は二次性徴発来の日安となる兆候の一つといえよう。

養護教諭がブラジャー装着指導上の留意点として挙げているように、乳房発育のみならず、発育段階に応じた性教育のなかで、二次性徴の諸現象と具体的に関連づける必要がある。

この指導により、女兒たちに乳房の発育の開始——つまり、自分自身の身体が大人の身体に変化するサインであることを受け止めさせ、羞恥心や抵抗感を抱くこと無しに自然にブラジャー装着が可能になるものとする。

2. 乳房の発育過程

ブラジャー装着の指導時には、乳房の発育過程、発育開始時期および発育速度に、個人差があることを配慮したい。乳房発育には、個人差があり、一様でないことを知らせ、不安を抱かせないように指導する必要があると考える。

特に乳房の発育過程については、Tanner⁶⁾、玉田⁷⁾、岡田⁸⁾、その他多くの研究がある。

乳房の発育過程の分類の基本といわれているTanner⁶⁾の分類と、日本人を対象に製品を開発している下着メーカーW⁹⁾の分類を次に示す。

(1) Tanner⁶⁾の分類 (図5)

1) 第1期 (乳頭期)

乳頭のみが突出する時期をさす。乳腺実質の発育はない

第一期 (乳頭期)

2) 第2期 (乳頭・乳輪期)

乳頭の突出につづいて乳輪が増大し、やや濃さを増加する

第二期 (乳頭・乳輪期)

「つばみの時期 (breast bud stage)」ともいわれる

3) 第3期

乳房・乳輪は増大するが両者の間に段差がない

第三期

4) 第4期 (蕾状乳房期)

乳輪はさらに増大し褐色の色調をつよめ、乳房は外形的には丘状になる

第四期 (蕾状乳房期)

5) 第5期 (完成期)

その後さらに乳房は円錐状に突出し、乳輪は濃く、乳頭は表面よりかなり突出する。この時期になると乳輪に存在するMontgomery皮脂腺もよく判別できるぐらいに突出し多数みられる。乳腺の発達もよく成熟婦人のごとくなる

第五期 (完成期)

(出典：8 puberty, Human Growth second edition⁶⁾)

図5 ターナーによる乳房発育段階

(2) W社⁹⁾の分類 (図6)

1) 乳頭期

男子や思春期の女子にみられ、乳腺はまだ変化していません。思春期になると乳腺が活動を始め、乳頭がわずかにもりあがります

2) 乳輪期

乳輪がもりあがり、半球状にふくらみ、その上に乳輪がでてきます

3) 乳房期第一期

乳房全体がふくらみ、乳輪は乳房より突き出て、さらにその上に乳頭がでています

4) 乳房第二期

第一期にくらべ、乳房のふくらみが大きくなり、乳房の下の線（バージスライン）がはっきりとあらわれます

5) 乳房第三期（成熟期）

乳線の発達が著しく、乳輪は乳房の中に沈んで皿状になり、その上に乳頭が突き出ています。その後、バスのふくらみの大きさには、個人差がでてきます

この二つの分類の相違は、乳輪と乳房の段差にある。Tannerの第3期は、乳輪と乳房の間に段差はないとしているが、W社のものは、Tannerの第3期にあたる乳房期に、段差があるとしている。

乳房発育過程は個人差があり、一様ではないことに配慮し、段階に応じた着装をさせるように指導したい。

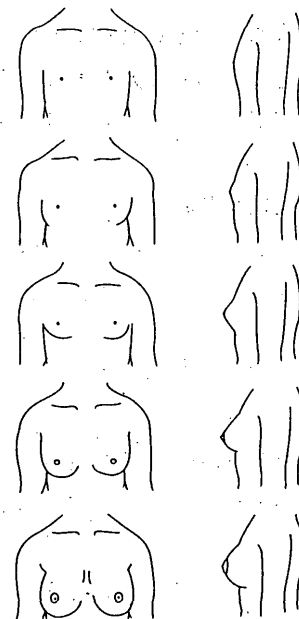
乳 頭 期

乳 輪 期

乳 房 期

乳 房 第 二 期

乳 房 第 三 期

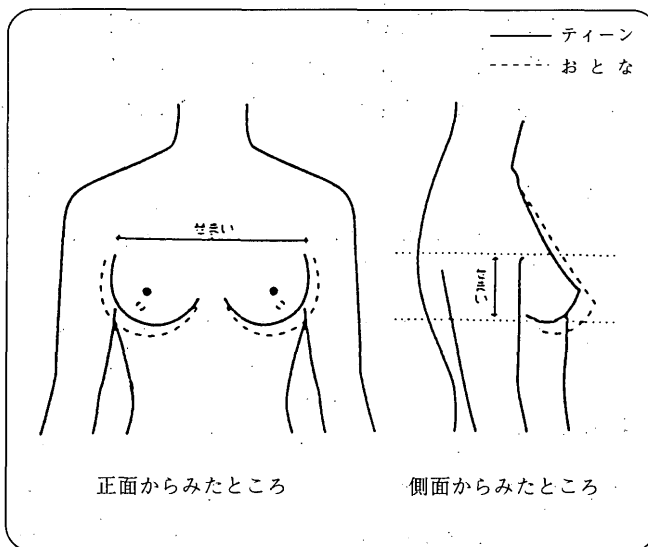
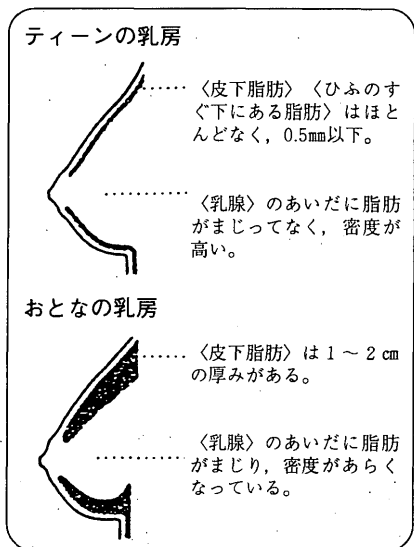


(出典：ふしぎなふしぎな私たちのからだ⁹⁾)

3. おとなと女児の乳房の違い

発育途上の女児の乳房は、成熟した乳房に比し脂肪の蓄積が少ないことから違いがある（図7）。

図6 W社による乳房発育段階



注：おとなとティーンズの乳房は脂肪の量とつき方が違います

(出典：Study of inner～内側からの身だしなみ²⁾)

図7 発育途上にある女児（ティーン）とおとなの乳房の違い

株式会社Wで一般に配布している「Study of inner～内側からのみだしなみ²⁾」によると、成人に比較し発育途上にある女児の乳房の特徴は、

1. バスの位置が高い
2. 前脇間隔が狭い
3. 体幹がまるい（丸胴）
4. 脇の部分狭い
5. 乳房が堅い（弾力性が少ない）

である。

これらのことを踏まえてブラジャー装着指導時には、女兒には成人の乳房との違いを理解させたい。そして、発育途上にある女兒が装着するブラジャーは、乳房の発育を阻害しない機能を持ったタイプのもの（図1, 2, 3）が望ましいことを指導したい。

4. 性被害予防

ブラジャー装着指導の内容から、協力をしていただいた養護教諭の半数が、「性被害予防」を挙げている。このことから、ブラジャー装着が性被害を予防する一つの手立てとなるならば、自らを守るという意味で装着する意義は大きい。

特に夏場の薄着の時期には、ブラジャー装着は、他人の目から自らを守るということを理解させる指導をしたい。

また、「性被害予防」を採りあげて指導する場合、女兒に過剰な恐怖心を与えるおそれがある。従って、ブラジャー装着指導のなかで、「性被害予防」は、付屬的に採り上げて指導する必要があるだろう。

5. 学校でのブラジャー装着指導者

学校におけるブラジャー装着指導者は、養護教諭のみならず、養護教諭と学級担任が協力して行うこともある。対象は女兒である。

学級担任が女性ならば自らの経験もあり指導が行いやすい。

男性の学級担任では、指導を躊躇すると思われる。また、指導される側の女兒には、戸惑いが生ずるであろう。しかし、調査をした学校では、男性学級担任が特別活動の時間に初経教育を行っているところもある。

従って、指導者側は、性別を問わずにブラジャー装着指導を行えるようにすべきであろう。

ブラジャー装着指導には、学級担任と女兒との信頼関係が重要である。

また、男性学級担任が指導を行う場合には、養護教諭として積極的に連携・協力をしたい。

6. 家庭との連携

ブラジャー装着には母親の意識が影響することから、母親にブラジャー装着に対する正しい知識を持ってもらう必要がある。

従って、養護教諭として女兒のみに指導するのではなく、母親にも情報を提供していきたい。

V. おわりに

二次性徴期にあり、初めてのブラジャー装着を経験することになる女兒たちが、羞恥心や抵抗感を抱くこと無く自然にブラジャーを装着するについて、ブラジャー装着の必要性、装着者の意識および学校現場の実態を知り、どのような指導を行えばよいかを考えた。

そこで、デパートやスーパーの下着売り場・下着専門小売店への聞き取り調査、産婦人科医師への聞き取り調査、「母と子の下着教室」の見学、学校現場での聞き取り調査を行った。

1. 下着専門小売店では主に成人を対象にしたブラジャーが販売されている。デパートやスーパーの大型店舗の下着売り場には、必要に応じた品数が豊富である。

2. 初めてのブラジャー購入時は、母親と来店することが多い。また、購入の契機は、母親の意識によるもので、本人の意識は低い。

3. 販売側は、発育段階に応じたタイプのブラジャーを薦めている。

発育段階に応じた着装をしてゆくことが自然にブラジャーを装着することを可能にするであろう。

4. 脱衣をしての採寸や試着には羞恥心を伴う。しかし、個々の体格、発育段階および乳房の形は異なる。従って、販売員に相談し採寸、試着をした上での購入を考えるべきであろう。

5. デパートの下着売り場では、「母と子の下着教室」が開かれている。その内容は、乳房の発育過程とブラジャー装着時期および母乳とブラジャーの関連など、今後のブラジャー装着指導に大いに役立つものである。
6. 小学校勤務の養護教諭は、ブラジャー装着の必要性を感じ、ブラジャー装着指導を行っている。
7. 養護教諭は林間学校および運動会等の学校行事と結び付けてブラジャー装着指導を行っている。これは、販売側が挙げたブラジャー購入の多い時期と一致する。

以上の結果から、女児たちにブラジャー装着の必要性を認識させるために、ブラジャー装着指導を行う意義は大きい。

学校現場の養護教諭は、乳房発育を具体的に二次性徴の諸現象と関連づけ、発育の個人差に留意した指導をする必要がある。指導することにより、女児たちがブラジャー装着に対する羞恥心や抵抗感を抱くこと無く、自発的に着装できるような指導を目指してほしいものだと思っている。

稿を終えるにあたり、調査に御協力下さいました方々に感謝し、御礼を申し上げます。

VI. 引用および参考文献

- 1) 青木英夫：下着の流行史 雄山閣 (1991)
- 2) 株式会社ワコール編：Study of inner～内側からの身だしなみ pp.3, pp.5 (1995)
- 3) 広井正彦：産婦人科MOOK No.18, 乳房管理 pp.78, 金原出版 (1982)
- 4) Donovan, B. T. & Bosch, J. J. van der Werff Ten: Physiology of puberty, Edward Arnold LTD., London 1965
- 5) 井上義朗：新小児医学大系 27A 思春期小児科学 I pp.48, 中山書店 (1982)
- 6) William A. Marshall and James M. Tanner: 8 puberty, Human Growth second edition, Plenum Press. 1986. 183-189p
- 7) 玉田太郎：思春期女子の乳房とその発育 産婦人科治療 42(2), pp.175～177 (1981)
- 8) 岡田加奈子：思春期女子の乳房発達の実態 母性衛生 Vol.32, No.3, pp.252～262 (1991)
- 9) 株式会社ワコール協力：ふしぎなふしぎな私たちのからだ pp.29, 旺文社 (1994)
- 10) 佐賀正彦・鬼沢幸世：産婦人科MOOK No.40, 思春期の産婦人科 金原出版 (1988)
- 11) 矢内原巧・河合清文・石塚雄作・長塚正晃・楠山大輔・村上基・荒木日出之介毛：NEW MOOK産婦人科 I 乳房管理 金原出版 (1991)
- 12) 今和次郎：女性服飾史 長谷川書店 (1948)
- 13) 近藤富枝：装いの女ごころ～もうひとつの日本女装史 講談社 (1985)
- 14) 井上泰男・匠秀夫：衣服の文化史 研究社 (1987)
- 15) 株式会社ワコール：THINK BODY～からだと下着のことがよくわかる下着読本 (1994)